

# UNIRITA

## Magazine

11  
2016

ユニリタマガジン

### 特集

ITトレンドから紐解く!  
「データ活用」に必要な3つのポイントとは?

ユニリタの新ビジネスコラム ～ビッグデータ編～

#### アナリティクス閑話

～バイモーダルITと情報システム世代の働き方～

ユニリタグループ紹介

さまざまな業界の時代や社会の変化に対応する  
サービスを生み出す「ユニ・トランド」

特設サイト更新情報

IT部門の変革をリードする特設サイト「it's YOUR turn!」  
変革のヒントを多数掲載中!  
期間限定につき、今すぐチェック!!

システム管理者の会

第8回アップデートミーティング開催報告

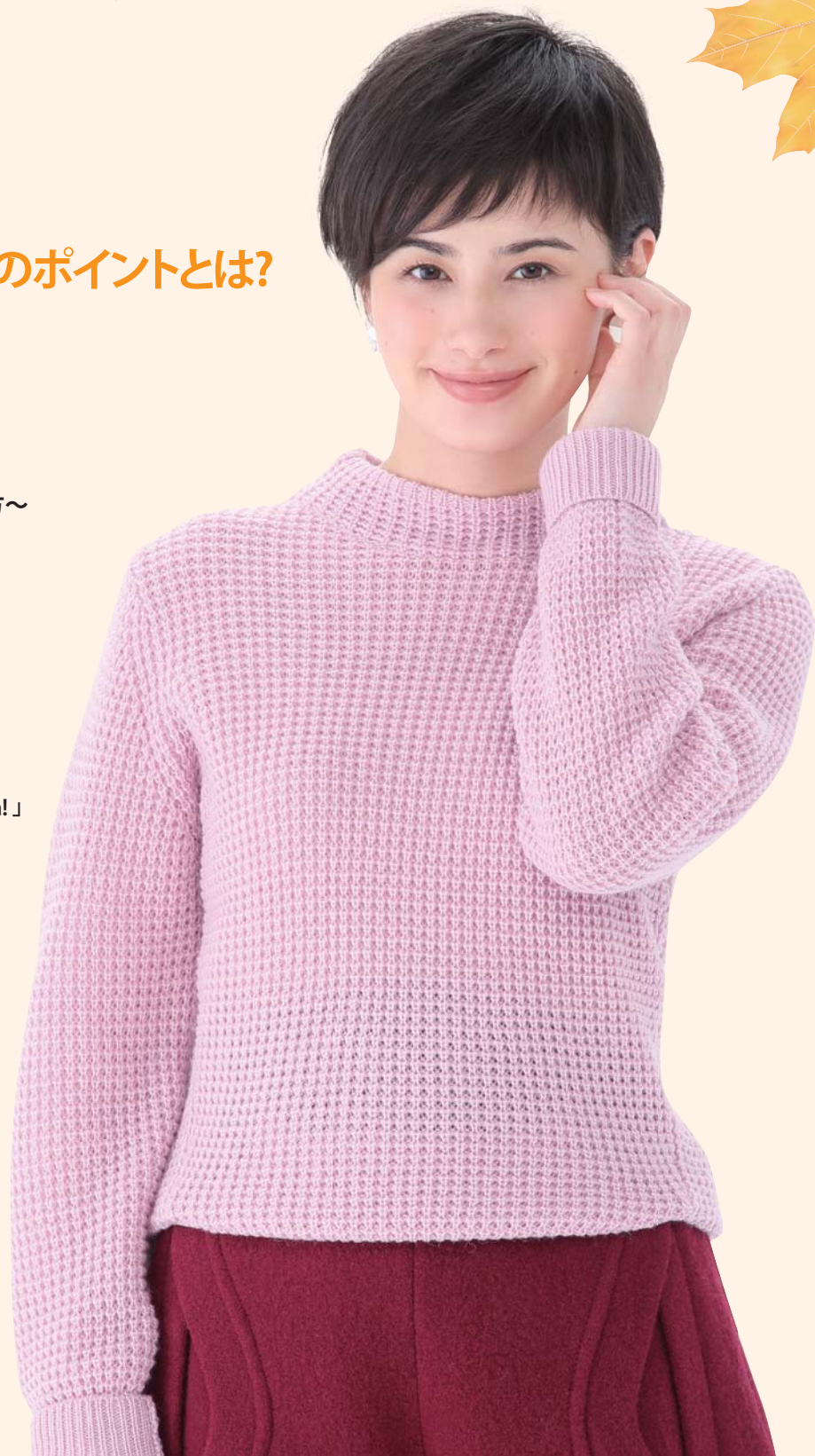
UNIRITA ユーザ会

第34回 UNIRITA ユーザシンポジウム 開催案内  
～次回のテーマは「九州を応援しよう!」です～

パートナーカンファレンス 2016 開催報告

100名超のパートナー様が参加!

ユニリタ  
イメージキャラクター  
ホラン千秋





## ITトレンドから紐解く！

# 「データ活用」に必要な3つのポイントとは？

2015年は、IoT（Internet of Things）元年と呼ばれていました。さまざまなモノがインターネットにつながるIoTは、私たちの生活やビジネスを大きく変える可能性を秘めています。一部の企業では、いち早くセンサーやGPS装置などのデータを活用し、事業課題の解決や新たなビジネスの創造などの成果を収めており、今後更なるイノベーションが期待されています。また、モノに限らずマイナンバーなどのパーソナル「データ活用」を模索する企業も出始めているようです。

### 企業は今何に着目しているのか

始めに、昨今のITトレンドを抜粋しながら、企業はどのような点に着目しているのかを見ていきましょう。

#### 【トレンド1】 IoTデバイスの変化とソフトウェアビジネスの新規需要

総務省では「平成28年度版 情報通信白書」の中で、IoTやビッグデータなどを特集のテーマに取り上げ、経済に成長をもたらす可能性について検証しています。

図1、2のIoTデバイス数の推移・成長率をみると、2015年の154億個から2020年には約2倍の304億個まで増大すると予測され、特に自動車や産業用途での成長が見込まれています。

企業は、これらIoTデバイスが生み出すセンサーデータ、位置情報など、これまで社内システムや事業リソースとして活用されていなかった膨大かつ多種多様なデータをいかに早く自社のビジネスに生かして企業の成長につなげていくかが求められています。

図1：世界のIoTデバイス数の推移

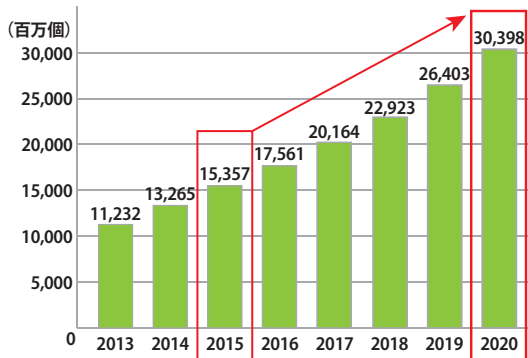
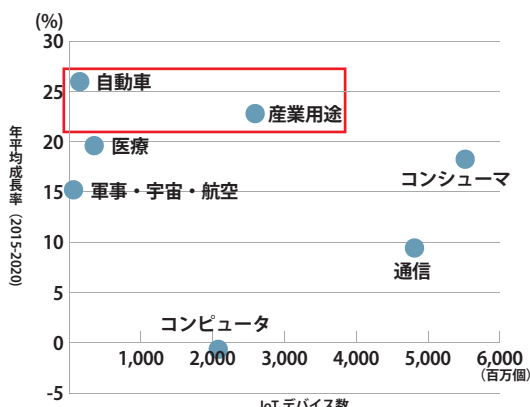


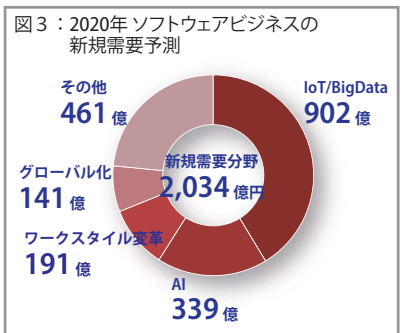
図2：分野・産業別のIoTデバイス数および成長率



(出典：総務省「平成28年度版 情報通信白書のポイント」  
soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/pdf/28point.pdf)

また富士キメラ総研が今後のソフトウェア市場動向について調査した結果（図3）でも、今後のソフトウェアビジネスにおいて、IoT・ビッグデータ関連の市場が新規需要として大きく期待されていることがわかります。

また、各企業においても「攻めのIT戦略」の1つとして、社内に分散するビジネスデータの活用から一歩進んで、社内外のビッグデータやオープンデータとの統合・活用を行い、新たなビジネス価値を見出す動きが急激に進んでいます。



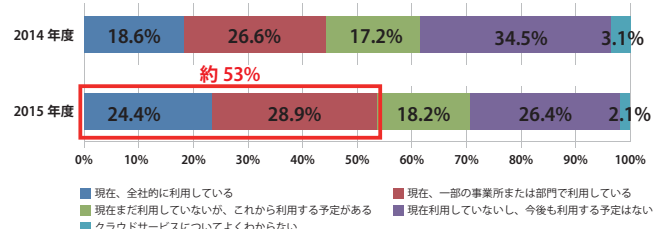
(出典：富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2016」  
注目の新規需要分野データより抜粋)

#### 【トレンド2】 加速するパブリック・クラウドの利用

クラウド総研の報告（図4）によると、2015年度調査で半数以上の約53%の企業がパブリック・クラウドを利用していることから、すでにクラウドがビジネスプラットフォームとして受け入れられている実態がわかります。

なお、これまでクラウドの利用目的には、サーバ構築や運用コストの削減といった主に「守りのIT」の側面がありましたが、クラウドの柔軟に対応できる「拡張性・利便性」は、今後ビッグデータの処理基盤として「攻めのIT」への役割も期待されています。

図4：企業のパブリック・クラウドの利用状況（2016年1月時点）



(出典：クラウド総研「国内クラウド市場 ユーザ利用動向調査 2015年度 Vol.2」  
http://cloudsoken.jp/pdf/2015/user-survey-vol2.pdf)

#### 【トレンド3】 増大する情報セキュリティへの意識と投資

前述したとおり、「攻めのIT」としての投資意欲が増加している一方で、ITRから先日発表された企業のIT予算に関する調査結果では、直近5年間で国内企業のIT予算でもっとも割合が高いのがリスク対策費だったことがわかりました。特にリスク対策費用の中でも「情報セキュリティ対策費用」は過去5年間で最高となり、「守りのIT」へも予算を投じている企業の姿勢がうかがえます。

以上のITトレンド情報から、各企業ではデータを活用する上で、

- ・「攻めのIT」としてのビッグデータ活用
- ・「攻めと守りのIT」としてのクラウド環境利用
- ・「守りのIT」としてのセキュリティ対策

という3つのポイントが、「攻防一体のIT対策」として重要視されていることがわかります。

## ITトレンドから紐解く、データ活用「3つ」のポイント

ここからは、序論のITトレンドから浮き彫りとなった3つのポイントについて、隠された課題と解決要素を深掘りしていきます。

### 【ポイント1】データ活用×ビッグデータ

SNS、IoTなどから発生するデータをビジネスで活用する際に課題となるのが、ギガ～テラバイト級の大規模なデータを実際にどのように関連付けし処理するかという点です。

一般的にデータ活用といえば、データ分析のためのデータウェアハウスやビジネスインテリジェンスなどの製品を思い浮かべる方が多いと思います。ユニリタも対応するソリューションを用意し、お客様の要望に応えるべく活動していますが、実はデータ分析の成功はその前段階である「データ加工やクレンジング」といったデータの準備に左右されることがわかっています。例えば、売り上げ分析を行う場合、商品名の重複や売り上げの金額にカンマが含まれると正しい集計や四則演算ができません。分析に適さない状態のビッグデータを取り込んでも実際のデータ活用には使えないのです。

顧客・商品といった従来の情報に加え、天候・お客様の動線（店舗、Webで動いた履歴）などのビッグデータをビジネスシステムに連携できる形に加工・クレンジングし、お客様が求めるビジネススピードに合わせていかに高速に準備しておけるかが重要なポイントとなります。

### 【ポイント2】データ活用×クラウド

クラウド化を推進する上での実態として、大半の企業は刷新時期を迎えた業務システムから一部をクラウド化する場合が多く、オンプレミスとクラウドの「ハイブリッド環境」での運用になってしまうという点があります。実際、多くの業務システムがメインフレームからクラウドまで多種多様な環境に分散しているケースが見られます。

また、グローバル企業においては、ネットワーク通信速度が遅い海外で稼働するサーバとの連携が必要な場合があります。このような場合でも、高速データ転送・高速アルゴリズム機能を提供し、ビジネス要求に応えられるデータ活用基盤の構築が重要となります。

さらに、クラウドのシステムがWindowsやLinuxなど異なるプラットフォームで構築されている環境では別の課題が発生します。「文字コード」の問題です。異なるプラットフォームで使用されている異なる文字コードのデータを連携するためには、まず複数の文字コードをシームレスに変換できる仕組みが不可欠です。

### 【ポイント3】データ活用×セキュリティ

企業にとってセキュリティ事故は、企業の存続に関わる深刻な問題です。データの保管やアクセスには十分に注意を払い、情報漏洩を未然に防ぐ努力が続けられています。

一方で、総務省が発表した「平成26年版 情報通信白書」の中では、データ活用を推進する上での課題としてパーソナルデータの取り扱いがあります。企業のシステムがハイブリッド環境となる理由のひとつは、「個人情報などリスクの高いデータはリスク対策からクラウド上に上げられず、オンプレミスで管理していることが多い」点にあります。

データ活用においてセキュリティ要件の高いデータは、多くの場合において活用価値のあるデータですが、この「セキュリティの壁」を超えられず、活用しきれていない企業が多くあります。

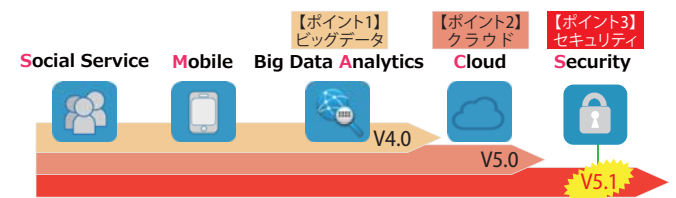
このようなデータをクラウド環境と連携して保管、活用していくためには、「必要最小限の情報を整理」「暗号化した上でのデータ連携」などが必要不可欠なセキュリティ要件となります。

また、システムへのアクセスや操作のログ情報を収集・分析することもセキュリティを高める1つの側面として期待されます。

## ユニリタが提唱する、データ活用基盤の姿とは

ユニリタでは、今回紹介した3つのポイント「ビッグデータ活用」「クラウド環境利用」「セキュリティ対策」の課題を解決し、さまざまなデータからビジネスチャンスを実際に捉え、企業の成長に向けた迅速な経営判断、業務執行の実現に向けて、データ活用ソリューション「Waha! Transformer」を進化させ続けています。

### Waha! Transformerの進化



Waha! Transformerは、V4.0で「ビッグデータ」対応を行い、V4.2において10億件規模の大容量データの高速処理を実現。続くV5.0では「クラウド」環境をサポート。ハイブリッド環境の高速転送にも対応しました。

そして、2016年リリースのV5.1では、お客様のニーズに応じて「セキュリティ」機能を強化し、データ活用のさまざまな課題を解決しています。

### ITトレンドにあわせて強化された機能

- データマスキング機能
- 暗号化・複合機能
- クラウド高速連携
- 高速化機能
- 維持・開発生産性向上

現在、データ活用基盤を手組みのプログラミングで構築し、拡張性や生産効率化の面で課題が発生している方、また、新たな要望をお持ちの方は、お気軽にお問合せください。

### 担当者紹介



プロダクト事業本部  
カスタマーサービス部第2グループ

松澤 ひろ子

私は入社後、メインフレームからWebシステム、データ活用とさまざまな領域のプリセールス、製品サポートおよび受託開発業務に従事してきました。

今後もお客様の課題や問題解決に有効なソリューションを提案していきますので、よろしくお願いいたします。

# アナリティクス閑話

～バイモーダルITと情報システム世代の働き方～



ガートナーが提唱する「バイモーダルIT」、日本では「攻めのIT・守りのIT」。情報システムを目的の異なる2つのモードに大別し、それぞれに適したやり方で構築・運用するアプローチが説かれています。

今回は、これらの2つの流儀とその背景となるデジタルビジネス、先進的なワークスタイルを実現しているケースから、企業の情報システムのこれからの働き方を考えたいと思います。

## ヒサ子 vs Google

御年73歳の義母ヒサ子とGoogleの自動運転のニュースを見ていたときの事です。

- Ⓢ 「何でそんな危ないことをするの？」
- Ⓣ 「いやいや、もう車を持たなくても自由に好きなところに行けるようになる。飲み会にも車で行けるし」
- Ⓢ 「タクシーで良いじゃない」・・・

そういえば、義母は若いころ運転免許を持たず、自宅と経営していたお店を毎日タクシーで往復していました。当時、「えらく贅沢な通勤ですね」と嫌味を言うと、「自動車買うのだって、維持するのも、走らせるのもお金はかかるし、事故なんか起こしたら大変。こうやってお歳暮もいただけるし、呼べばお店にも来てくれるからね」それはそれで「なるほど」と思ったのを覚えています。

移動手段として考えれば、今でもタクシーという手段もあるし、50代で免許をとった義母にとっては、運転は一つのレクリエーション。それ以上に、鉄腕アトムのおかげで世界では珍しくロボットに対してポジティブな日本国民でも、どうも人工知能的なことは、いろいろな意味でまだ信用できないというのが本音のようです。

片や、高校生の我が娘は、家族と、広く浅い友達以外にはLINEをあまり使わなくなりました。

SNOWで(顔を)盛って、インスタに乗せるか、ミクチャで動画化して投稿、本当のプライベートはSNAPCHAT。なぜなら、ここには親は出てこないからです。

何かが大きく変わるときには、必ず新旧のデバイド(格差)が存在します。企業の情報システムもそうかもしれません。「情報システムの経営から求められる役割が変わってきている」、世代間での本音は違いますが、現実としては新しいコトがいろいろと起きています。

## 今更聞けないデジタルビジネス

デジタルビジネスというと「デジタルをビジネスにする」と捉えがちですが、今はまだ「デジタルでビジネスをする」と言った方が正しいかもしれません。

私たちのイメージとして、デジタルの境目がどこにあるのかが曖昧で、楽天市場をデジタルビジネスというとか違うという気もしますが、例えば、世界最大のホテルチェーンであるマリオットが取り組んでいるデジタル変革は皆さんにはどう映るでしょう。(図1参照)

今となっては、それほど驚くべき技術でもありませんが、マリオットがすごいのは、Airbnbなどの出現でマーケットが変わっていることを認識し、戦略を追加して組織を変え、手段として図1のような施策を行っているということです。

これらの施策のターゲットを、将来マリオットの顧客になるであろう現役よりも若い世代を“Experience Seeker”(快適性だけでなく、体験を優先する)と定義し、セールス・マーケティング・E-Commerce・コールセンター・ブランドマネジメント・ITすべてを1つの組織下に置く顧客セントリックな組織を作り運営しています。

ただし、すべてのビジネスの方向転換をしたわけではなく、マリオットとしてのアコモデーションやホスピタリティは更なる品質・生産性向上を目指して運営されています。ビジネス自体は相変わらずホテル業なのです。

## 2つのモードとワークスタイル

マリオットのケースは、現代の情報システムに1つの示唆を与えてくれます。

従来、情報システムは、企業内の業務にコンピュータを用いて省力化・自動化してきました。直接の恩恵を得る利用者は業務担当者であり、ITは「業務担当者の道具」でした。これが業務全般に行きわたると、そこに集まる情報を用いて、現場を含む各階層の意思決定を支援するためのもの、すなわち、「経営のための道具」になります。デジタルビジネスの時代には、顧客(ビジネス)と業務にITを用いて直結し、更なるビジネス拡大を図るための「ビジネスの道具」になります。(図2参照)

重要なのは、それぞれの位置づけや道具がなくなったわけではなく、新たな役割が追加されていることです。

ガートナーは、情報システムのこれからの役割をモード1、モード2の2つのITに分けた「バイモーダルIT」を提唱しています。日本的に言えば、モード1が「守りのIT」、モード2が「攻めのIT」というところでしょうか。

「定義的に言えば、モード1はニーズを受けて開発する予測可能なアプリケーションを、モード2はパートナーと協力して可能性を探る探求的なアプリケーションを指します。」  
(John Enck, Management Vice-president Gartner Research)

図1：マリオットが取り組むデジタル変革例

・ Mobile Check-in/out	スマートフォンによるチェックインとチェックアウト
・ Phone as room-key	スマートフォンがルームキーになる
・ Order food/beverage from phone	ルームサービスの注文がスマートフォンでできる
・ Two-way text chat	ハウスキーピングのリクエストをチャットでできる
・ In-room VR	お部屋でVRを使ったホテル案内
・ In-room Netflix	個人のネットフリックスのアカウントをホテルで使える

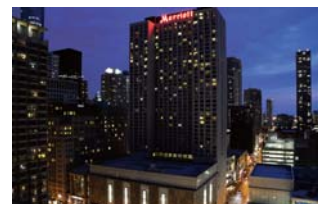
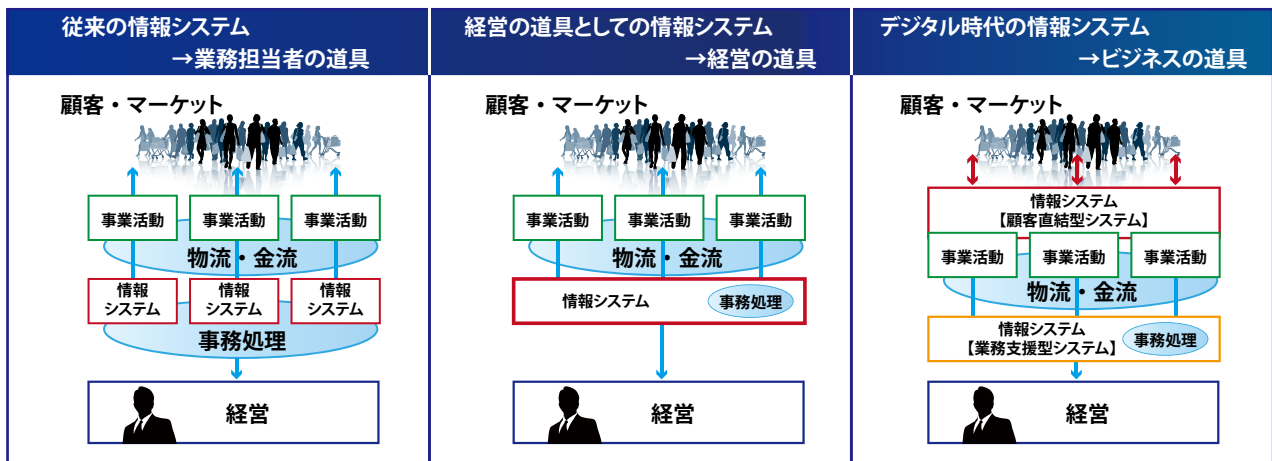


図 2：情報システムの位置づけと役割の変化



モード2が、前述の「ビジネスの道具」であるならば、その前提となる顧客密着型ITは、その要件が頻繁に変わります。環境や要件の変化に迅速・柔軟に対応するためにアジャイル開発が実践されています。先日、このアジャイル開発を得意とし、「納品のない開発」という本を執筆されたソニックガーデンの倉貫社長に当社で講演いただきました。

ソニックガーデンは主にデジタルビジネスを行っている企業に対し、「納品のない開発」を行っている会社で、非常にユニークなワークスタイルをとっています。なんと、社長を含めて社員全員が全国各地でリモートワークを行っているのです。全員リモートワークというと、どうもフリーランスの集まり、というイメージですが、実態は全く異なり、「単に働く場所が違うだけ」で、皆が同じ時間に、お互いの顔を見ながら働く、そのための仕組みが非常にうまく設計されています。

もう一つ興味をひいたのが、プロジェクトチームは、私たちがよくやるような、能力(レベル)の違う技術者をミックスした役割徒弟制度ではなく、同じ能力レベルの人間がチームを組むということです。先輩が後輩を指導するのではなく、仲間同士で助け合う、人事・評価という面では管理者はおらず、評価もしない。まさにスクラムとはこういうことなのかと深く考えさせられました。

このチームワークの重要さは、世の中のベンチャー企業の経営者が口を揃えて言っていることであると、この時に思い出しました。

## ワークスタイルと生産性の関係

当社でも製品開発分野で一部リモートワークを試験運用しており、生産性が上がったという報告を受けています。

「生産性＝成果/コスト」と定義し、スクラム開発のスプリントタスクの処理量(成果)を通常勤務とリモートワークで比較すると、同じタスク量をこなすのに、リモートワークの方が短い期間で行えるという結果が出ています。今はその要因は何なのかを検証しています。

生産性の評価については、本来は分子(成果)を上げることが目的ですが、その前に分母(コスト)をどれだけ小さくしたかで生産性を測っています。ここで分子をそのままにしておくと、いずれコストは元に戻ります。1日でできる仕事に3日与えると、更に良いものを作るために残り2日間を一生懸命働くか、2日間働いたフリをするかのどちらかは、管理者の方ならご経験済みでしょう。

企業側の視点からみれば、生産性が上がった後に残ったコストで成果の「おかわり」を設定できるかどうか、しかも自らできるか、に働き方を変える意味が出てきます。そのためには、制度よりも、自主的に「成果を求める」規範や文化が重要になります。

ソニックガーデンでは、体制を維持するため、仕事に応じて体制を調達するという事はやらないそうです。良い人がいれば長い時間をかけて採用する。リモートワーク前提の場合は場所や条件に縛られず優秀な人材の採用もできる、という大きな利点もあります。やはりキーは、ヒトであり、その規範なのです。

## 新しいコトをやるため

ハイモダリティによって2つのモードが必要とされる情報システム。これまでは、ある仕事を企業内で行うか、外部調達するかは、コア・ノンコアで区別されてきました。カップラーメンを麺とスープと容器に分け、自社のコアとなるスープのレシピのみを残して、麺と容器は外部委託するように、業務を細分化する形で切り出してきました。これも、既に20年前の話です。

ビジネスの不確実性や複雑性が増すと、取引費用の負担が増えます。この場合、そのような業務は社内に取り込んだ方が単純にコストは安くなります。

デジタルビジネスを支えるITは企業にとってコアであり、自由奔放な顧客・マーケットに直結するITは、これまでのバックオフィスの比ではないスピードと複雑性が混在します。これに対応するには、少なくともその取引コストが下がるまでは、自社で考え、実行するしかないのです。

前述のとおり、新しい事に取り組み成果を上げるには、従来とは異なる文化・規範にしていく必要があり、それは並大抵のことではありません。そのためには、それに携わる人達のワークスタイルを変えるのが1つの方法だと私たちは考えます。

答えはありませんが、今のやり方を変えるのではなく、今とは別に新しい組織を作り、それをどんどん広げていくのが「近道ではないか」とも考えます。

当社では、IT人材育成のためのコンサルティングだけでなく、技術変革・ワークスタイル変革のためのコミュニティや勉強会があります。私たちの挑戦も随時発信していきたいと思っています。

### 担当者紹介

野村 剛一



執行役員  
新ビジネス本部  
データアナリティクスグループ長

「リアルタイム」が社会を変える。  
ITとデータでゲーム・チェンジを  
楽しみましょう。

## さまざまな業界の時代や社会の変化に対応する サービスを生み出す「ユニ・トランド」

今号では、今年5月にユニリタグループの新会社として設立された「株式会社ユニ・トランド」のユニークなサービスをご紹介します。バス会社や地方自治体向けのクラウドビジネスを行うユニ・トランドのサービスはどのようにして生まれたのでしょうか？

### 始まりはバス利用者の「不安」から

全国の路線バス利用者数が70年代から激減している中、北海道の十勝バス様は利用していない人に「なぜバスに乗らないのですか？」と問いかけました。すると利用者は、「路線バスはどこに行くかわからない」、「乗り方がわからない」といった「不安」を抱えていることが分かりました。これに対して、アナログ的な紙でバスの乗り方・路線別目的地マップを作成したところ、利用者が増えだしました。

ここにユーザーニーズを見出し、十勝バス様のアナログ的な取り組みを全てWEBやスマートフォンアプリで利用できるように開発されたのが目的地路線検索サービス「もくいく」です。

### 災害対策の経験からデジタルトランスフォーメーション

そもそも、なぜこのような形のサービスに着目したのかですが、東日本大震災により、路線バスが大きな影響を受けたことから、ユニリタグループにて災害・障害対策事業を中核とする株式会社ビーティスが、路線バスに対する災害対策の検討を始めました。

災害時にはバスの位置情報と最低限の通信手段が必要と考え「バスロケーションサービス」の研究を開始しました。路線バスに無線は必須ではなく、最低限の通信手段があれば良いということから、安価なスマートフォンを利用したサービスを開発しました。

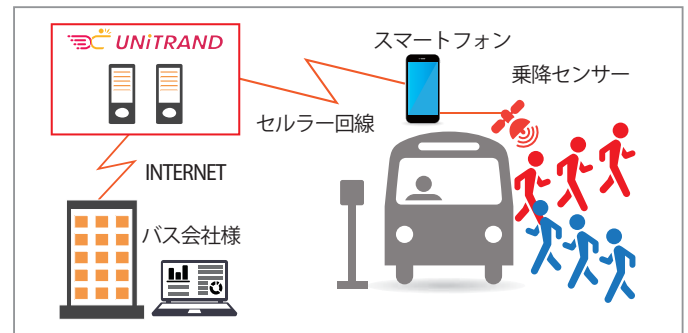
しかし、当時は災害対策のためにバスロケーションを導入するというニーズが無かったため、十勝バス様の取り組みに着目し、まずは「目的地路線検索サービス」として開発、そして「バスロケーションサービス」と接続しました。このビジネスをきっかけに誕生したのが「ユニ・トランド」です。

将来的には、車載器のスマートフォンに災害時の初動アプリを導入し、サイネージについても災害情報を発信できるようにしたいとも考えています。

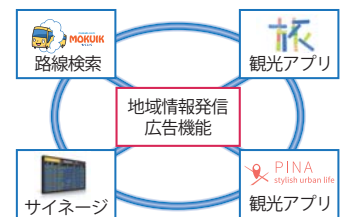
### 進化を遂げる「もくいく」

現在は「バスロケーションサービス」もリリースされ、検索したバスがどこにいるかを簡単に表示できるようになりました。また駅や病

院にもサイネージを設置し、バスの運行状況を表示して利便性の向上に努めています。さらに最新の事業としては、バスに乗降センサーを設置し、バスロケーションの位置情報と組み合わせることにより、バス停単位の乗降人数と混み具合などまでリアルタイムに把握できるようになっています。このデータは適切な運行計画やバス停単位の収益などを正確に把握することが可能であり、ダイヤ編成や路線の見直しにつなげることができます。



また、十勝バス様においては、日帰り路線バスパックのパンフレットを作成して乗降客を増やすという方針がありましたので、これについても「旅ツール」というアプリを作成して、観光に路線バスを使ってもらう仕組みを構築しました。旅行者が路線バスを使う場合、バスは遅れ気味になる傾向が高いため、位置情報との連携が重要だったのです。



### ユニ・トランドとユニリタの協業

乗降センサーとバスロケーションから得られた情報をベースに、天候・気温・都市計画・人口推移などから人工知能を用いたデータマイニングモデルを研究中です。

### 特設サイト更新情報

## IT部門の変革をリードする特設サイト「it's YOUR turn!」

## 変革のヒントを多数掲載中！期間限定につき、今すぐチェック!!

10月8日より、特設サイト「it's YOUR turn!」を公開しています。雑誌広告、Web広告でご覧になった方もいらっしゃるのでは？特設サイトでは、コラムやホワイトペーパーを中心に、IT部門が変革するためのヒントをお届けしていますので、是非ご覧ください。



### <11月追加予定コンテンツ>

#### コラム第3弾

#### it's YOUR turn!

デジタルビジネスに必要な基盤とベストプラクティス



#### 特設サイト オリジナル壁紙

特設サイト限定のオリジナル壁紙をプレゼント！



各種お役立ち資料を  
順次公開中です！

URL: [www.unirita.co.jp/itsyourturn](http://www.unirita.co.jp/itsyourturn)

特設ウェブサイトはこちらで検索

ユニリタ



**アップデートミーティングとは？**

システム管理者認定試験合格者を対象に、有識者の講演やディスカッションを通じて知識や経験、自分をアップデートする目的の集まりです。

**今回の内容は？**

システム管理者の会 推進委員である山崎製パン株式会社 計算センターの日下部昭彦氏より、IT サービス品質向上の取り組み紹介として「ITIL 準拠のサービスマネジメント導入における課題と解決策失敗を未来に生かす組織風土づくりへの挑戦」と題した講演と、参加者同士での IT サービス品質向上に対するグループディスカッションを行いました。



山崎製パン株式会社  
計算センター 運用課  
課長代理  
日下部 昭彦氏

**受講者アンケートより**

「今直面している課題に対して解決された姿を示していただけました」

「まさに現在自社で取り組んでいる改善活動の悩みと同じで、大変参考になった」

「取り組みを具体的に説明いただき、大変参考になった」



など、ご参加いただいた方より多くの共感をいただきました。

**次回の予定は？**

2017年2月開催に向けて、現在企画を検討中です。あなたもシステム管理者認定試験に合格してアップデートミーティングに参加しよう！

**第8回アップデートミーティングの講演、グループディスカッションの詳細はポータルサイトをご覧ください**

● 詳しくは、「システム管理者の会ポータルサイト」をご覧ください。

システム管理者の会

検索

## 第34回UNIRITA ユーザシンポジウム 開催案内

～次回のテーマは「九州を応援しよう！」です～

**今回、開催地が大津から福岡へ変更になります！**

今年で UNIRITA ユーザシンポジウムは 34 回目を迎えます。滋賀県大津にて 12 回開催してきましたが、2017 年は福岡(九州)で開催することになりました。今年の春先に第 34 回の開催場所を検討し始めた頃、熊本で発生した地震の報を受けて、UNIRITA ユーザ会としても何らかの形で九州を応援しようと考え、このたび福岡での開催が決定しました。

**今回は九州を応援するための特別企画を検討しています。**

九州の企業様にも積極的に参加いただく予定

パートナーズゾーンでは、地場の企業の紹介や PR を実施

博多や天神の地元の人しか知らないおすすめ情報を提供

他にも、まだまだ九州を応援する企画を考えていますので、ぜひご期待ください。

また、第 34 回 UNIRITA ユーザシンポジウムを盛り上げるため、UNIRITA マガジンでは次号から毎号「福岡特集」を掲載します。ご期待ください！！

**参加費用のお知らせ****参加費用 48,000 円**

※ユーザ会会員、かつ、相部屋利用タイプ

昨今の訪日客の増加に伴う宿泊費用の値上の煽りを受けて、今回より参加費用を値上げすることになりました。皆さま、ご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

**申し込み**

11月4日より、UNIRITA ユーザ会ホームページにてお申し込み受付を開始します。

(<http://www.uniritauser.jp/34symposium/>)

● イベント情報の詳細は Web で！

UNIRITA ユーザ会

検索

# 100名超のパートナー様が参加！ パートナーカンファレンス2016開催

10月17日(月)に野村コンファレンスプラザ日本橋にて、パートナー様向けイベント「UNIRITAパートナーカンファレンス2016」が開催されました。当日は小雨が降る中、46社108名のパートナー様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

第1部の講演では、ユニリタ製品のトレンドや、新しい取り組み、製品に関する新トピックの紹介に加え、パートナー様との協業モデルの事例も紹介されました。その後、第2部の懇親会は、パートナー様同士の情報交換場としても活用され、盛況のうちに終了することができました。


## Agenda:

- ユニリタ製品のトレンドと新しい取り組みについて
- パートナー様との協業強化を支援する取り組み
- パートナー様のビジネス競争力強化を支援する製品開発  
～ソフトウェア・メーカーとしての製品開発およびリリース計画～
- ユニリタ・パートナー様との協業モデルのご紹介



## 協業モデル事例発表

ユニリタでは、パートナー様がご持ちの製品、サービス・ノウハウを組み合わせ新たなソリューションを構築し、他社には無いユニークな価値をお客様に提供することを目指しています。今回のカンファレンスでは2015年度に、新しくソリューションを構築いただいた3社様を新規モデル賞として表彰するとともにその事例を発表いただきました。

<p>①株式会社インタートレード <b>新規モデル賞</b> 経営課題の解決を仕組化する経営統合管理プラットフォーム 【GroupMAN@IT e<sup>2</sup>】 ～ 「Report &amp; Form Warehouse」との連携によるODMソリューション ～</p>	<p>株式会社インタートレード 取締役 ビジネスソリューション事業本部長 阿久津 智巳様</p> 
<p>②株式会社ゴールデンマジック <b>新規モデル賞</b> 動画を活用した教育システム LIVE UNIVERSE ～ 「教えてもらえない」悩みを解決 ～</p>	<p>株式会社ゴールデンマジック 感動設計室 主任 飯田 久実子様</p> 
<p>③都築電気株式会社 <b>新規モデル賞</b> お客様の企業価値向上のためのITワンストップサービス ～ KitFit運用サービス ～</p>	<p>都築電気株式会社 技術戦略本部 商品企画統括部 運用企画支援室 担当副部長 加藤 辰也様</p> 

## 優秀パートナー様表彰

2015年度から2016年度上期に活躍されたパートナー様への表彰を行い、新規モデル賞の3社様とあわせ5社のパートナー様を表彰させていただきました。



## ユニリタと新しいビジネスモデルを作ませんか？

ユニリタでは、パートナー様のビジネスにあわせた柔軟な協業モデルやサービス形態を提案し、販売活動を全面的に支援します。

弊社との協業モデル構築にご興味ございましたら、お気軽にご相談ください。

弊社製品のお取り扱い、およびパートナービジネスについてのお問い合わせは、営業本部東日本営業部/パートナービジネスグループ ([up@unirita.co.jp](mailto:up@unirita.co.jp))までお問い合わせください。



## 株式会社ユニリタ [www.unirita.co.jp](http://www.unirita.co.jp)



本社	〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟	TEL 03-5463-6383
大阪事業所	〒541-0059 大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル	TEL 06-6245-4595
名古屋事業所	〒451-0045 名古屋市中区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(旧48KTビル)	TEL 052-561-6808
福岡事業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-2-2 博多東ハニービル	TEL 092-437-3200

ユニリタグループ 株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研  
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ  
株式会社ユニ・トラント

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。